DSC 会長からの手紙

　　奈良県ダンススポーツ連盟の第 34 回競技会が終わりました。参加された選手の皆様お疲れ様でした。そして見事入賞された選手の方々、また、昇級をきめられたＣ級の選手の方々おめでとうございます。
今回は表彰を通じて眼に涙を浮かべておられる選手をお見かけし、当方もウルウルしてしまいました。本当におめでとうございます。

さて、今回の競技会で気がついた事をご報告申し上げます。
LOD について、です。
先ごろも A リーグ広報で逆 LOD の危険性について記事が載っていましたが、理解されていない選手がおられます。(C 級スタンダードのクイックステップ等)
フロア上での LOD は右図の通りです。
（☺ マークは審判員、矢印は LOD）

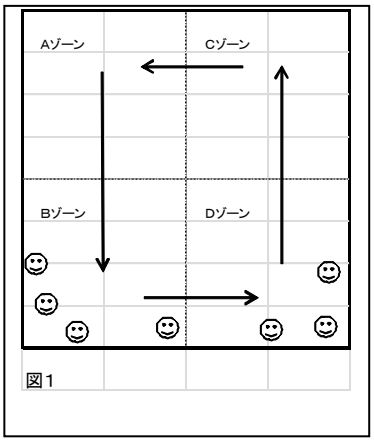

図1

仮にダンスを進めて行く上で
下図のショートカットを取るとします。
（下図　C ゾーン内の矢印）

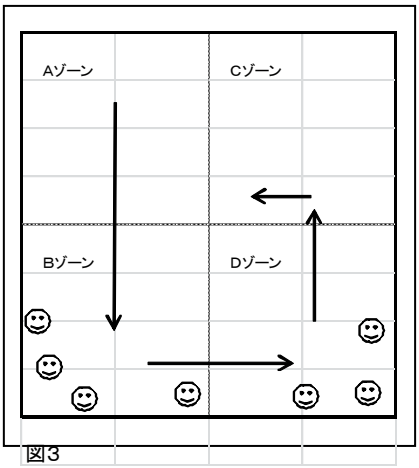

図3

この時、C ゾーンでの動きは A ゾーン上方（奥）から踊りを進めてくるカップルにとって進路妨害になります。　これが LOD 違反です。
（下図参照）

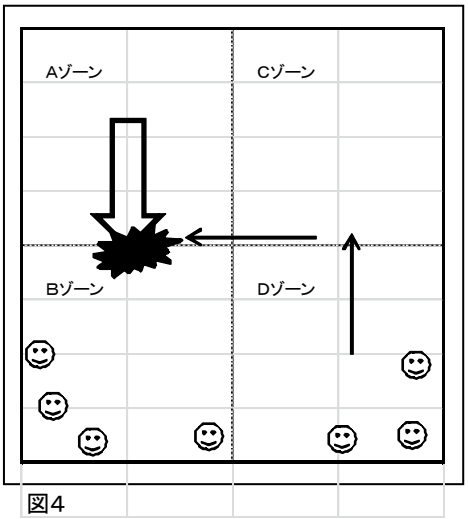

図4

この動きは、A ゾーンからやってくるカップルがいなければ、問題ないでしょう。
フロアクラフトとしても、悪くないかもしれません。なぜなら審判員により多く自分の踊りを見せることができるかもしれないからです。

リーダーは単に自分たちのルーティンを進めて行けば、それで良い訳ではありません。
三つの重要な役割があると思います。

1、踊りを優雅に進め審判員から評価を勝ち取る
採点競技ですから、チェックをもらえるなんて思ってはいけません。
2、パートナーをリードし、より効果的な踊りをアピールする
これこそ、リーダーのだいご味です。リレーションシップの良否がここに現れます。
3、万一の時はパートナーを守る
フロア上ではリーダーにとって、パートナーは唯一の味方です。
パートナーの良質なフォローなくして、最高のパフォーマンスは得られません。

通り一遍のルーティンを審判の前で披露するだけでは審判員の評価は得られません。いかに効果的に魅せ、アピールしなければ審判員は振り向きません。
それは、姿勢やムーブやフットワークだけでなく、音楽表現やフロアクラフトの巧拙も問われるのです。
ダンススポーツは紳士淑女のスポーツです。
お互いを尊重し、対戦ルールを守りながら最高のパフォーマンスをフロアで表現してほしいと思います。

（奈良県 DSC 会長・奈良県ダンススポーツ連盟会長　大江偉夫）